



集落支援員広報

かわら版・いわしろ

かわら版のマスコットひょうたんでーす

NO. 10

発行者：岩代地域集落支援員

連絡先：岩代支所地域振興課

電話：55-2111

発行日：平成30年12月27日

伝統の舞で輝かしい新年を！「元朝の舞」

～田沢熊野神社太々神楽保存会～



田沢熊野神社の太々神楽は、明治の初めに長屋神社(現本宮市)から習い受け、約150年にわたり継承されている伝統芸能で、岩代地域では唯一、小松流の太々神楽を伝えています。

神楽は、かつては、春・秋の祭礼、小正月の年3回行われていましたが、大戦時に一時途絶え、その後保存会が復活させました。

保存会の皆さん(会長：石井芳一さん、会員：15名)は、後継者不足という課題に直面しながらも、伝統の灯を再び絶やしたくないと、毎週日曜日に地元集会所に集まり練習を重ねています。

保存会により毎年元日に行われる「元朝の舞」は、田沢地区の新年の風物詩となっており、第25回となる今回の元朝の舞は、平成31年1月1日午前零時から田沢熊野神社で行われます。

社殿では、「献上の儀」や「榊舞」、「扇の舞」、「宇賀(狐の種蒔)」など新年にふさわしい六つの演目が披露され、最後の演目である「大黒舞」では、紅白餅まきが行われます。

会場では、神社役員の皆さんによる御神酒や甘酒の振る舞い等もありますので、ぜひ伝統の舞をご覧になり、地域の皆さんと一緒に新しい年を迎えてみませんか。

イノシシ等の被害を減らそう！

～ 鳥獣被害対策講習会開催 ～

岩代地域では、イノシシ等の有害鳥獣による被害が課題となっています。農作物だけでなく、道路や土手を崩される等の被害も後を絶ちません。

各地区では、電気柵等による対策や猟友会の皆様による駆除等により一定の効果は上がっているものの、なかなか被害が減らない現状にあります。

このような状況下、東北野生保護管理センターと安達改良普及所から講師を招き、12月20日に東和文化センターで鳥獣被害対策講習会が開催されました。

その中では、捕獲だけに頼るのではなく、環境整備(餌となる放棄果樹や生ごみを無くす、イノシシ等にとって魅力的な住処となる藪や耕作放棄地を無くす)、被害防除(電気柵・トタン柵・メッシュ柵等の設置)の総合的な対策が重要であるということでした。

また、被害対策は、集落全体で取り組むことでコストを抑え、より効果を高めることができるということで、3戸以上の団体で取り組む場合は補助を受けることもできます。

‘自分達の集落を守るのは自分達’です。この機会に集落で話し合ってみてはいかがでしょうか。有害鳥獣の生態を知り、集落ぐるみで対策することで、被害のない地域にしたいものですね。



地域で頑張っている人紹介



1人目は西新殿太郎田にお住いの佐藤さんを紹介します。佐藤さんは田舎暮らしがしたいと、2009年、定年を機に埼玉県から移住してきました。

移住後は、桑園だった場所を整地し、栗の木を60本ほど植えて採れた栗を知人等にあげていました。

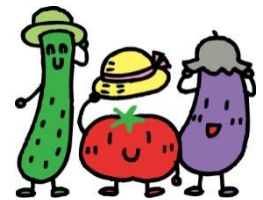
しかし、知人の勧めもあり、今年から「さくらの郷直売所」に、収穫した数種類の野菜と一緒に出荷しています。中でも珍しい落花生は好評で、直ぐに売れてしまうようで、塩茹でにして食べると大変美味しいとのこと。

佐藤さんは音楽が好きで、あだたら混声合唱協会に所属し、週一回の練習日を楽しみにしています。農作業の合間には、パソコンを使ってパートごとに楽曲を作り、CDにして会員の皆さんに差し上げ、喜ばれているそうです。

「楽しみは何ですか？」と伺うと「野菜作りとお酒。」という答えが返ってきました。自治会の寄り合い等に参加し、地域の方々と酒を飲みながらの関わりを楽しんでいるようです。

佐藤さんに、「地域の良さはなんですか？」と尋ねると「人ですね。」と即座に答えられました。このことから、佐藤さんのお人柄とともに住民の方々の温かい人柄が伺われました。

これからも地域の方々と関わりを大切に、田舎暮らしを楽しんでいただきたいと思います。



2人目は、西新殿細田地内で炭焼きをされている方々を紹介します。

赤沼幸雄さん夫妻は数十年炭焼きをされていましたが震災で窯が潰れてしまい、その後、高橋忠夫夫妻、三浦嘉さんと一緒に炭焼を再開して8年になるそうです。

私達が訪れた時は「立ち込み作業」の最中でした。作業は、原木を炭窯にただ並べるのではなく、最初に敷木を敷き、その上に原木を重い方を上にして立てていき、さらに原木の上に細木を載せていくというもので、このようにして焼くことで良い炭ができるのだと

言います。原木は主に、堅くて長持ちのするナラやクヌギの木を使っています。

炭が焼きあがるまでの管理も大変のようで、かまど作りをした後、火入れをし、窯の温度が85度になるまで火を燃やし続けなければならないと、原木の状態や気候によっても燃やす日数は異なるそうです。炭が焼きあがるまで皆さんは、原木の切り出しをされており、寒い中での作業は苦勞が多いとのこと。

最後に「炭焼の良さはなんですか」の問いに「お金にもなるが、みんなでワイワイガヤガヤ話しながら作業をするのが楽しいのかな。」とお話されていました。

皆様も作業の邪魔にならないよう訪れてみてはいかがでしょうか。気さくで楽しい方々の集まりです。

